

この混迷の時代を突き破るユニットの登場だ。その名はMaternity 5。彼等のサウンドには来るべき時代をイノベイトしていくパワーに溢れている。何年後かには必ずシーンに君臨する日が来るだろう。今はとにかくこの驚くべき速攻性でパッケージングされた彼等のファーストアルバムを大音量で全身に感じて欲しい。そこには新たな闘争宣言が高らかに歌われている。これこそ我々が待ち望んでいた音だ。

まず簡単なメンバー紹介から始めることにしよう。このあまりにもいいかげんで婦人団体から訴えられそうなMaternity 5というユニット名ではあるが、それはあまりに性急な衝動を音にするため殆どその場で付けられたものらしい。しかし彼等は様々な政治的運動も行うという日本版レイジとでも言ってもいいようなユニットである。まず彼等は食品に添加物を入れさせない活動（反食品添加物戦線,AFAF）をしており添加物の入った食品は絶対に食べない、食べさせない、持ち込ませないという市民的活動を行っている。Maternity 5に関連して彼等はBattle for the Rights of Pregnant Women (BRPW)という活動も行っている。

"Maternity 5" members profile

"Maternity 5" are

Toshifumi Yagi (Yagi)

Producer,lyrics.

Tomoyuki Matsuo (Mats)

Programmer,bass.

Yugo Oshima (Hugo)

Programmer,mixer,vocal.

Maternity 5サウンドの要である大島はユニット結成の経緯をこう振り返る。『あれは神戸大へ入学したときだったよ。この二人には他の奴には無い強靱な知性に裏うちされたファンキーさを放っていたんだ。俺はこいつ等を見てマジで運命を感じたんだ、こいつ等となら音楽よる政治的革命を達成できるってね。』松尾『そうなんだよ。このとき自分のベースが始めて重要な意味を持つような感じがしたんだ。大島の幅広い音楽的才能がおれに何かを与えてくれるようなね。各々の音楽的バックグラウンドは全然異なるけれども、八木の卑猥で猥雑なフィーリングがすべてを束ね大島が形にするそれが確かな戦略と結び付くと世界をターンさせるって確信せずにはいられなかったよ。』八木『そうだ、俺たちの他に誰がこの矛盾だらけの世の中に風を起こせるって言うんだい？今の音楽界の中にそ

れができるヤツなんか絶対にいないよ。でも所詮俺達にとって音楽は革命を起こすための手段にすぎないけどね。』

西田氏のコメント

『初めてMaternity 5のメンバーとのファーストインプレッションだって？うーん、どうだろ。結構昔のことだしね、細かいことまでは覚えてないヨネ。でも初めて彼等をみたときは何かやってくれるんじゃないかってことぐらいはいくら鈍感な俺だってわかったさ。あいつら他の連中とは目が違ってたモンネ、体内から溢れ出てくるオーラってやつかな、その圧倒的なパワーの前に俺は正直彼等にはかなわないって速攻わかったよ。百年頑張ったってあのレベルにまでいかないよってみんな言ってたよね、本当彼等には脱帽さ。俺は彼等と幸運にも知り合いになったけどさ、これって結構凄いこと何だヨネ。本当にいい時代に生まれたって感じかな。まだMaternity 5の音楽聴いたこない奴がいるって？まあそれは仕方ないかな、デビューしたバツカリだからね。まあ俺に言わせればさ、デビューが遅いって感じもするヨネ。既存のレコード会社の大人がさみんな音楽わからない奴ばかりだったからね。え？このコメントライナーに載せられないって？会社の悪口言うなって。馬鹿野郎、テメエ俺にケンカ売ってるのか？オマエらMaternity 5のこと解ってねえんだよ。こんなことぐらいで潰される奴らじゃねえんだヨ、あいつらは。絶対世界変えるってあいつらわ。まあ見てなって』

メンバーによる曲の紹介

『ドリアン・ショック！』

Yagi: これは俺達のダチの後藤って奴がタイのお土産にドリアンを持ってきてくれたところから話しが始まるんだ。

Mats: そうそう、その時彼からこの果物の女王であるドリアンに農薬が散布されてるって話を聞かされたんだ。本当にショックを受けたよ。その時Yagiがこれを曲にしようって提案したんだ。

Hugo: まず俺とMatsと一緒にリズムトラックを作ったんだ。コード進行は俺がやったけど、ベースはMatsさ、彼のベースを聴くと哀愁が漂ってて本当にいいんだ。

Yagiの歌詞とすごくマッチするし、言うことないよ本当に。 . . .

『もみじまんじゅう』

Yagi: これはMatsとHugoが作ったんだ。

Hugo:この曲はジャジー風に作ろうと思ったんだ。その点リズムトラックは最小限に抑えてるよ。あとはMatsのベースの出番って感じだね。

Mats:俺はもみじまんじゅうに入ってる食品添加物の矛盾を表現したかったんだ。個人的にいい仕事をしたと思ってるよ。Vocalも最高さ。

Hugo:VocalパートはVocorderを使ったんだ。その分、添加物入りのもみじまんじゅうを知らずに食べた人の苦しみがよく表わせたと思うよ。

『5th Song』

Mats: これ何だった？

Hugo:まだこの曲、Instrumentalしか作ってないんだ。だから5th Songって言う題名も仮題なんだ。今のところYagiの歌詞待ちさ。

Yagi: この曲もベースがきいてて本当にいいよ。二人が作ったInstrumentalを聴いて俄然やる気が出るよ。いい曲にはいい歌詞をつけなきゃね。期待して待っててよ。

『Loneliness』

Mats: 俺達の初めてのラブソングさ。リズム、コードはすべてHugoがやったよ。

Yagiは確かこの曲で初めてVocalをやったんだよね。

Yagi: 本当に緊張したよ。だって後藤に見つめられながらの作業だったしね。

でもいい経験をしたよ。曲は基本的に語りとサビの繰り返しさ。

Hugo:実はこの曲大晦日の時に作ったんだけど、あまりにも熱中しすぎて、いつの間にか知らないうちに年が過ぎてたんだ。カウントダウンできなくて本当に残念だったよ（笑）。

『ダイオキシン』

Hugo:こいつは俺が全部やったよ。曲のテーマはダイオキシン汚染さ。リスナーが少なくともこの曲を聴いてダイオキシンの恐ろしさ感じとってくれたら本望だよ。えっ！他のメンバーが何故参加していないのかって？本人に聞いてくれよ。

Mats: この時、俺達は環境庁までデモをしに行ってたんだ。ダイオキシンの排出を禁止しろってね。その時奴等は俺達を全然相手にしなかったんだ。だから俺とYagiは正面口に火炎瓶を投げただけさ。1日拘留されたけどね。

Yagi: そこで、Hugoにダイオキシンをテーマにした曲を作ってくれて、拘留所から電話して頼んだのさ。そこにいた警官も俺達のファンだったので喜んで電話を貸してくれたよ。